

---

# 緋色の波濤

ELYSION

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

緋色の波濤

### 【Nコード】

N7362Y

### 【作者名】

ELYSION

### 【あらすじ】

艦魂が存在する世界における史実とは異なる太平洋戦争。この作品においての艦魂は、私ELYSIONの独自の考証によるものです。既存の艦魂作品ならびに作者様を冒瀆しかねない事を前もってお詫びしておきます。

## プロローグ

アメリカにとって最大の誤算は、欧州列強四ヶ国ヨーロッパが、異を唱え、揃って日本側に付いた事だ。

異を唱えたのは、アメリカ国務長官コーデル・ハルが起草した『日米協定基礎概要案』

一般に「ハル・ノート」と呼ばれるものだ。

それが公表されるやいなや、イギリス、フランス、ドイツ、イタリアの列強四ヶ国が、日本に同情した。

内容は日本に対し、たしかに狡猾かつ屈辱的に綴られている。

それは至極当然だ。日本がこの内容に憤慨し、牙を剥く - 即ち戦いを起す様に仕向けたものだからだ。

「だからといって、何故日本に味方する！」

時の第32代大統領フランクリン・デラノ・ルーズベルトは自問する。

原因はいろいろと考えられる。

19世紀後半から帝国主義を掲げる欧州列強は、こぞって中国（当時は清朝）に侵行するが、

それに乘遅れたアメリカは、日露戦争に勝ち、ロシアを満州から追い出した日本に対し、共同運営を

持ち掛けるが、日本はイギリスをパートナーとした。

そして10年後に勃発した第一次世界大戦（当時は欧州大戦）。ここでもアメリカは乘遅れる。

物質的援助のみに終始し、軍事的派兵を行う機会を得られないまま、戦争は終結してしまつたのである。

これは日本が、日露戦争の恩返しとばかりに、イギリスを中心とする連合国側に早々から参戦を表明し、

事実、虎の子の巡洋戦艦部隊の内、『金剛』『比叡』他を遙か離れた欧州ヨーロッパへ派遣するという

意気込みを見せたのとは対象的だった。

加えて、戦時特需で多大な利益を得た事も、「手を汚さず私腹を肥やす」という悪しきイメージを

戦火に吞まれ、疲弊した欧州各国に植え付ける事となった。

そして大戦後、アメリカを揶揄する場合の筆頭語として「日本でさえも」が多用される事となる。

これはアメリカにとって酷い屈辱である。

よりによって、極東の小国、しかも有色人種の国と比較対象されるのだから。

それはやがて、日本に対する憎悪となつて蓄積される事となる。

悪しきイメージと引換えに得た利益も、1929年から始まった恐慌で痛いしつぺ返しを食らう。

以後、アメリカ経済は不況が蔓延する。

公共投資による内需拡大では効果を出せず、残された手っ取り早い方法は、戦争による需要拡大となる。

しかし、戦争をするには相手が必要だ。何処の国を相手にすれば良いだろうか？

スケープゴート

それには恰好の生贄とする国があるではないか。そう、長年の恨みが溜まった日本だ。

けれども、他からはどう思われようと、とにかく正義を自負する彼らは、発端は日本からと考えた。

その為には日本を憤慨させる材料が必要だ。そしてこの材料がハル・ノートという訳だ。

これに欧州各国が異を唱えたのは想定外だったが、だからといって中止に至る根本的要因では無い。

日本との争いを傍観するだけなら、それで結構。

最悪、同調して攻められる事になろうとも、厄介とはなるが、まとめて叩くだけだ。

その場合でも、まずは日本という優先順位は変わらない。

何しろ日本は、優れた白人国家群に割って入ろうとする、凶々しく

厚顔な唯一の有色人種国だからだ。

この忌々しい国を蹂躪し、勢いのまま、その先の中国をも我らのものとするのだ。

それに我々には頼もしい味方がいる。それは日本の背後に位置するソ連だ。

日本によってアジアへの進出を阻まれ、大戦では革命の勃発で途中脱退を余儀なくされ、

欧州各国から疎外視されているこの国は、我が国と境遇が似ている。日本を敵とみなしている事も。

「我がアメリカは偉大だ。大丈夫。きつと巧くいく」  
ルーズベルトは己にそう結論着けた。

そして、完膚無きまでに叩きのめされる日本の姿を想い、ほくそ笑むのだった。

## プロローグ（後書き）

この作品は、現在の私のメインである『時空の波濤』用のプロットを生かしつつ書くものです。

というのも、日露戦争前から展開される同作品では、太平洋戦争に行き着くまでに、

自分でも途方に暮れる程の文章量がこの先必要であり、今後の予想も全くつかない事から、

忘れないうちにメモ代わりとして、一番書きたい太平洋戦争部分を先に書き殴っちゃえ！と、

相成った訳です。要はアメリカ相手にドンパチやりたいただけなのですがw

とはいえ、そのまま書いたのではネタバレにもなりかねませんので、わざと変えた部分も出てくるでしょうし、第一、『時空の波濤』自体が紆余屈折した挙句、

大幅に形を変えたものになる可能性も大いに有ります。

この辺りはその時になってみないと、私自身でも解りません。

同時に、同作品・第6・5話bの後書きでも書いた通り、既存の艦魂作品に対して、

自分なりに感じた問題点と、その解釈についても、前面に出して書いていこうと思います。

その結果、冒流に走るに至る事を、前もってお詫びしておきます。

艦魂が前面に出る分、未来からの技術云々の件は影を潜めます。

あくまでもこの作品における日本は、自力で史実より充実しているという設定です。

しかしながら、それでも物量チートのアメリカを相手にするには全然足りない。

その為、プロローグにある通り、欧州列強を日本の味方に付けました。

これで後方の憂いが無くなった日本は、アメリカと正面切って戦えます。

御都合主義が多々あるでしょうが、楽しんでいただければ幸いです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7362y/>

---

緋色の波涛

2011年11月22日05時18分発行